



まちかど インタビュー

活力ある町づくりを目指して 大吹地区宅地開発事業

町では、町有地の有効活用による定住人口の増加や人口流出の抑制をはかるために、下北迫字大吹地区において、今年度末の完成に向けて小規模宅地造成事業を進めており、造成規模は8区画です。

そこで、当事業に対して町民のみなさんが期待していることなど、ご意見・ご感想をお伺いしました。



菅野 定子さん
(下北迫・ニツ沼)

町の人口が年々減少していることを、私はとても心配しています。

少しでも宅地を造成し、人口を増やしていけば、町もにぎやかになるので、とても良いことだと思います。

これからは、1世代限りという考えで家を建てる方も多く、子どもたちに宅地を買ってあげ、広野町に住んでもらいたいと思う親もいますので、求めやすい価格での分譲を望んでいます。



大和田 栄造さん
(下北迫・西町)

宅地造成をすることは、町の人口増にもつながるので、大いに結構なことだと思います。

しかし、車社会といわれる現在、造成地への出入り口となる6号交差点は、見通しが悪いうえ狭く、近隣の住民は今でも大変苦労しています。

宅地分譲により、さらに利用者が増えるのであれば、道路改良や6号交差点に信号機を設置するなど、周辺の住環境の整備も併せて進めてほしいと思います。

編集後記

実りの秋を迎え、農家の方々にとって、大変忙しい時期となっている。

秋は、「食欲の秋」「読書の秋」といわれるように、人間生活にとって大事な季節でもある。

それを保つために努力する季節でもある。町民それぞれが健康に留意して「町づくり」に参加することで、町の活性化が創り出されるものと思う。

(中津伸一)



▲秋の便りの彼岸花 (折木・館)

発行・編集責任者

議長 坂本 紀一

広報委員会

委員長 中津 伸一

副委員長 渡邊 正俊

委員 鈴木 紀昭

委員 塩 史子

委員 渡辺 久長

委員 鈴木 正範

委員 遠藤 智

次の定例会は12月です